

那須岳の火山活動解説資料（令和元年 10 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1～4、図 5 - 、図 6 - ）
湯本ツムジケ平監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南東約 5 km）及び日の出平北監視カメラ（茶臼岳山頂火口の南西約 0.8 km）による観測では、茶臼岳の噴気は一時的に 50 m まで上がることがあるものの少ない状態で経過しています。
3 日に実施した現地調査では、茶臼岳西斜面（無間地獄）や北西斜面の噴気地帯では、前回観測（2015 年 9 月 5 日）と比較して噴気量は少なくなりましたが、依然として活発な噴気活動が認められました。赤外熱映像装置による観測では、引き続き高温域が見られましたが、その分布域は過去と比較して、茶臼岳西斜面（無間地獄）では特段の変化はなく、北西斜面では縮小していました。
- ・地震や微動の発生状況（図 5 - 、図 6 - 、図 7）
那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。
- ・地殻変動の状況（図 6 - ~ 、図 8）
GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図 1 那須岳 茶臼岳の状況（10 月 17 日、湯本ツムジケ平監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。

次回の火山活動解説資料（令和元年 11 月分）は令和元年 12 月 9 日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平 29 情使、第 798 号)

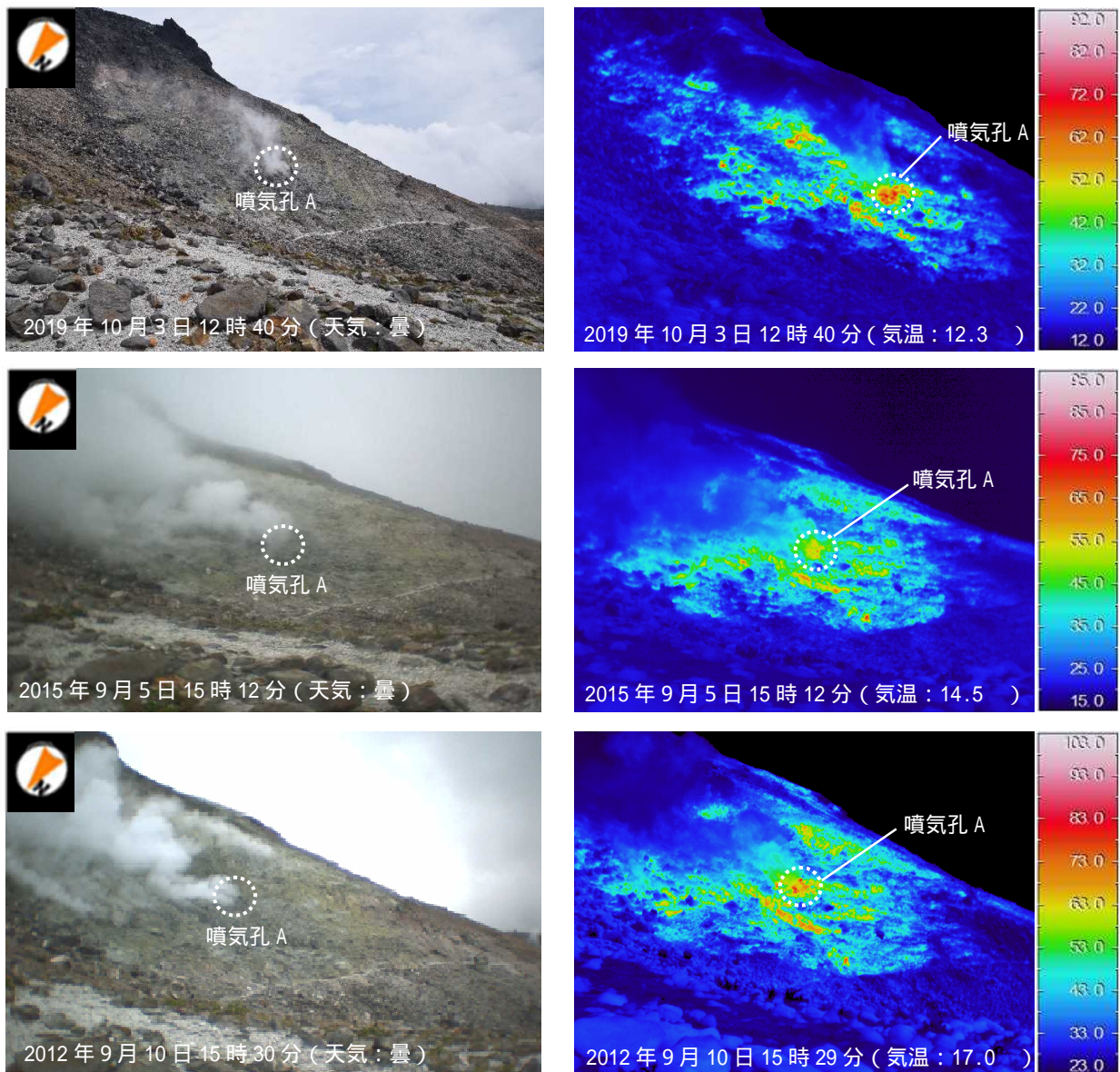


図2 茶臼岳西斜面無間地獄付近の状況

- ・噴気量は少なくなりましたが、依然として活発な噴気活動が継続していました。
- ・赤外熱映像装置による観測では、前回観測（2015年9月5日）と比べ、高温域の分布に特段の変化は認められませんでした。

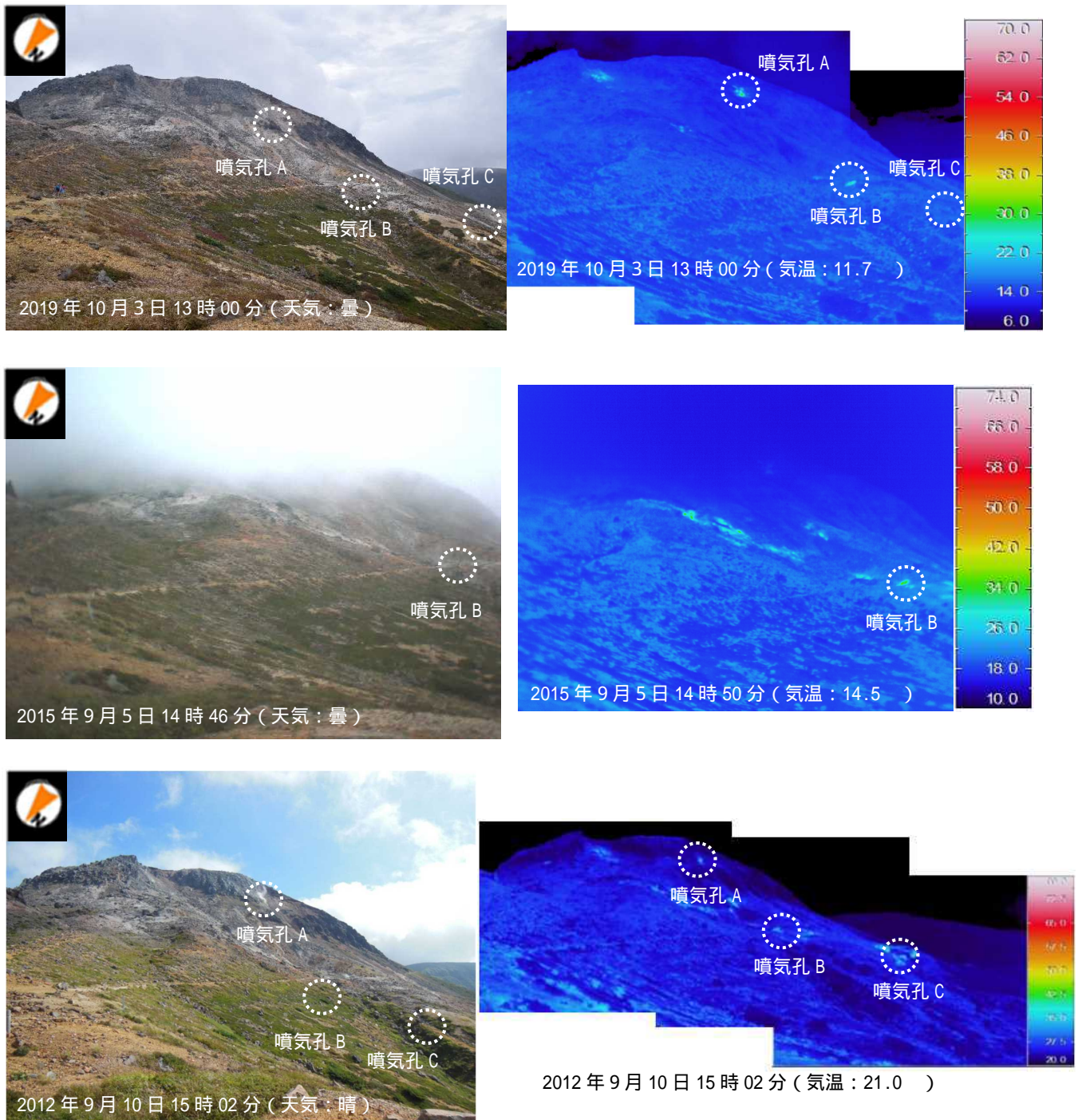


図3 茶臼岳北西斜面の状況

- ・噴気孔 A から噴気が出ていることを確認しましたが、前々回の観測（2012年9月10日）と比較して勢いは弱くなっていました。噴気孔 B、C では噴気は認められませんでした。
- ・赤外熱映像装置による観測では、噴気孔 A や B に対応する地熱域は認められましたが、その他噴気孔 C や谷筋の地熱域は縮小、もしくは見られなくなっていました。

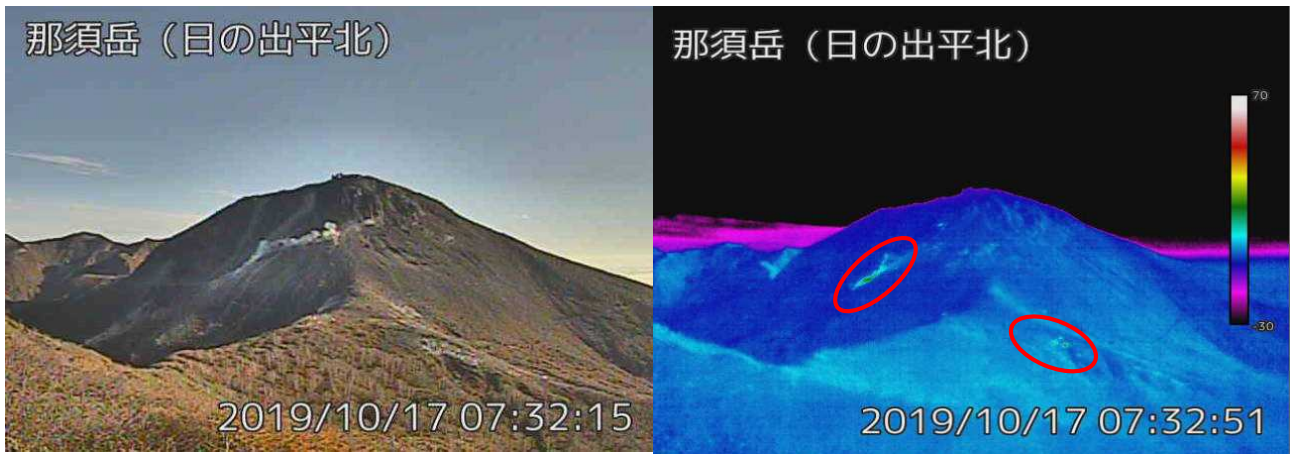


図4 那須岳 茶臼岳の西側斜面の可視画像と地表面温度分布（日の出平北監視カメラによる）
 ・噴気地帯（赤丸内）に対応している場所で引き続き高温部分が認められます。
 ・地表面温度分布に特段の変化は認められません。

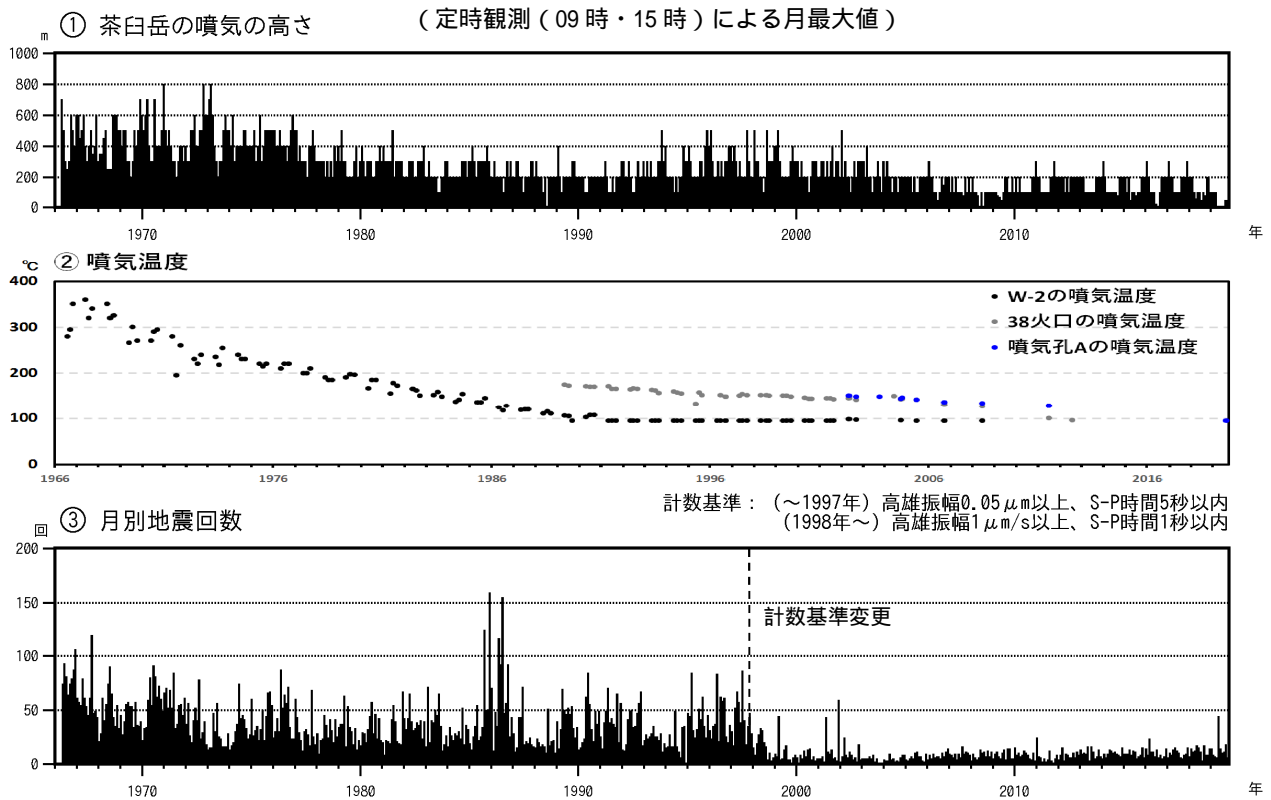


図5 那須岳 火山活動経過図（1966年1月～2019年10月）
 定時観測（09時・15時）による月最大値
 噴気温度、W-2及び38火口はいずれも茶臼岳西側斜面の温度観測定点
 月別地震回数（～1997年：那須岳周辺の地震を含む、1998年～：那須岳山体付近の地震のみ計数）

- ・噴気活動、地震活動は低調に経過しています。

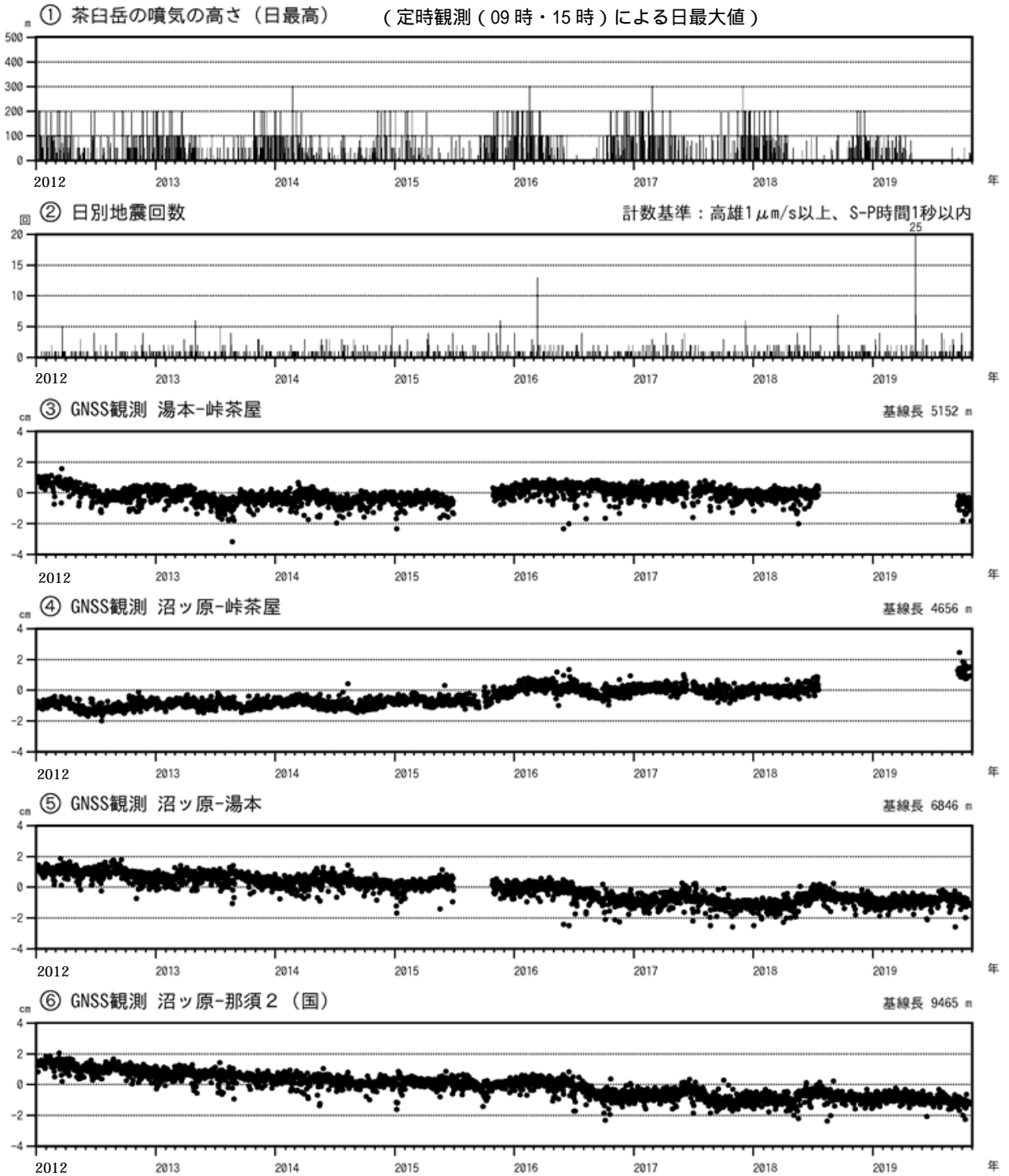


図6 那須岳 火山活動経過図（2012年1月1日～2019年10月31日）

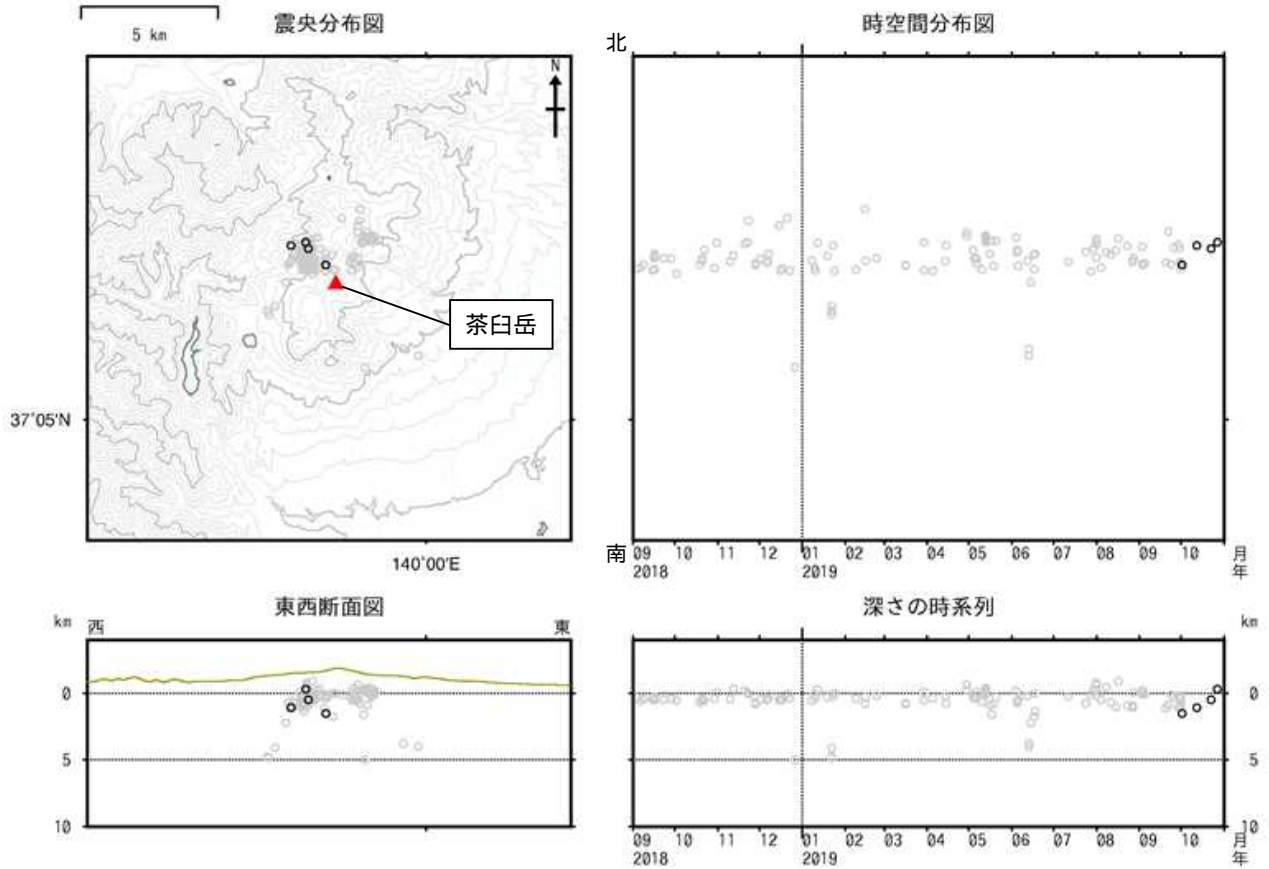
定時観測（09時・15時）による日最大値

～ GNSS連続観測による基線長変化、空白部分は欠測を示します。

の基線長変化にみられる夏季の伸びの傾向は、季節変動と考えられます。

～ は図6のGNSS基線 ～ に対応しています。2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

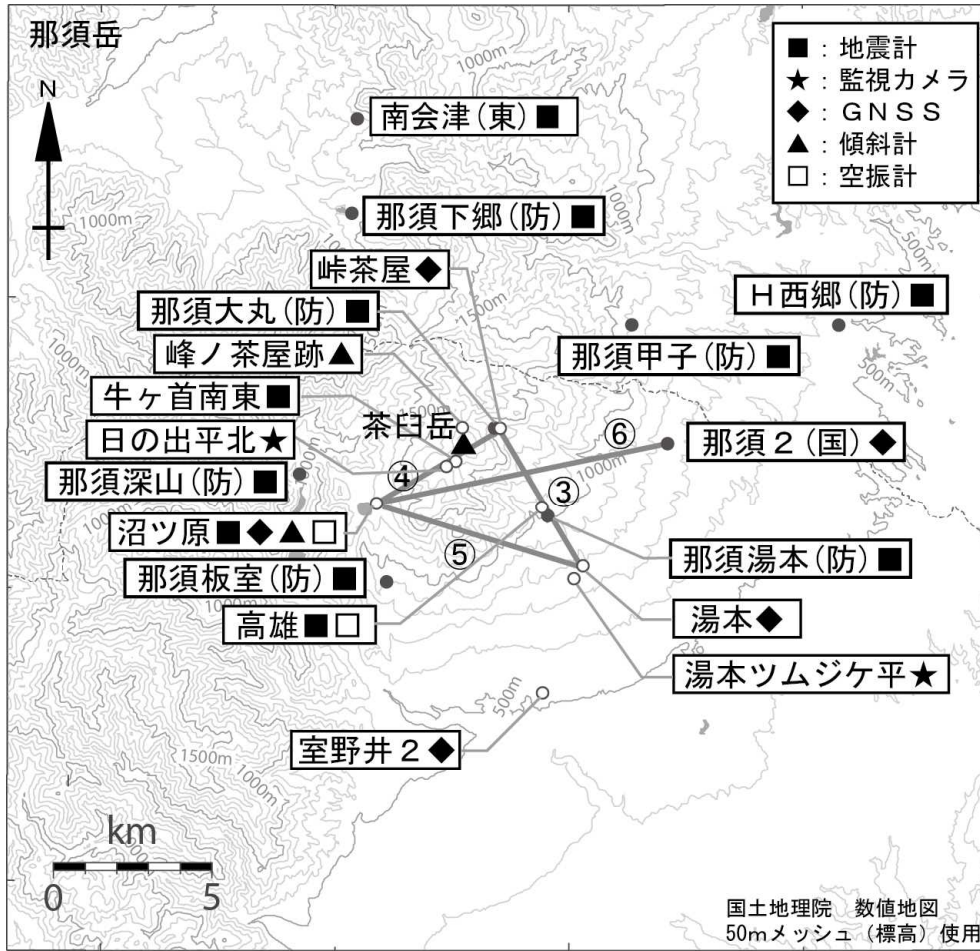
・噴気活動、地震活動は低調で、GNSS連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められません。



○：2018年9月1日～2019年9月30日 ◐：2019年10月1日～10月31日

図7 那須岳 震源分布図（2018年9月1日～2019年10月31日）

- ・那須岳付近を震源とする火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
- ・火山性地震は、主に茶臼岳付近のごく浅いところから海面下1 km 付近に分布しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（東）：東北大学

図8 那須岳 観測点配置図

GNSS 基線 ~ は図6の ~ に対応しています。